

理事会を中心に始めた「暮らしを自分たちの手にとりもどそう！」活動。
「生協で一週間やりくり交流」「時短・節約・家計簿交流」

身体も家計も 元気が一番!

何でも気軽に話せる 組合員暮らし交流広場

ごいっしょしませんか! 2つの交流ご案内 おしゃべりは知恵の袋 聞いて聞かせて伝え合います!

4/4 (火) 10-12時 つくば春日交流センター 「生協は暮らしのお医者さん」

生協に若手組合員さんから電話がありました。
「あのう・・・以前、やりくり算段、時短・節約・家計簿、古ハガキ・チラシ活用の催しに行きたかったけど遠くて無理でした。でもどうしても知りたい、聞きたい・・・」
(理事)「じゃあ、近くでやりましょうよ!」

「ええ! やってもいいんですか!」
(理事)「もちろんよ! 地域の組合員さんにも呼びかけましょうよ。職員さんも協力してくれますよ!」
そんなお電話から、つくばで始まりました!
会場は「育児の会」で取ってます。
どうぞごいっしょに。



4/18 (土) 9時半~12時 新本部 2F 組合員室 「おしめはずし この春ごいっしょ♪」



会場はできたてホヤホヤの
守谷の新本部 組合員室
TX 守谷駅から徒歩 7分

どうしてる? とれた? とれそう? 子育ては一人で悩まないの
どうか! 参考になるかしら、私のおしめはずしのお話、
時代遅れでもいいとこって言われそう、
老いも若きも、さあ、蓋を開けてみると・・・でもよかったら聞いて、
求めるものって何だろうって? いい暮らしって? いかにか生きるかって?
私も話したい話しますの方も大歓迎! 聞きたい聞いての人も大歓迎! どなたもどうぞ

いろんなおしめ、布、紙、介護用も、プール用も、それがね、最近ではリサイクルされるというの。
環境汚染問題だってあるのに、気持ち良いままのおしめがあるよ。だから体が気持ち悪さ感じないの。
「心おきなくのおしゃべり会」「無理のない心配の無いお喋り会」どうぞご一緒に!

「配達料」精算のご連絡~今週配布の3月度請求書をご確認下さい。4Pに詳細

3. 11から4年（6）～「原発のない福島を！県民大集会」に参加して



2階正面で聞く生協の参加者

「2015 原発のない福島県民集会」に参加して

つくばみらい市 石崎勝義

福島原発事故から4年過ぎた現在、「福島はどうなっているのか？」との興味もあって この集会に参加してきました。

福島市のあずま総合体育館には全国から集まった皆さんで ほぼ満席（主催者発表では6500人とのこと）でした。

はじめに「山木屋太鼓」「はっぴーあいらんど」と二つの若い人たちの元気のよい公演があって 会場の気分が盛り上がりました。

大会の冒頭で 角田政志さん（県平和フォーラム）が以下のように発言されました。

- ・「いま県知事や議会が県内の全原発の廃炉を求めているが東電・国は方針を示さない。」
- ・「原発事故を風化させてならない」
- ・「今日は本県の現状を全国に発信したい。また県民の努力や復興への願いを広く訴えたい。」

次に作家の落合恵子さんが次のような連帯の挨拶をされました。

- ・「福島は4年たってもまだ差別され続けている。」
- ・「私のところからの願いは 福島とともにいる ということだ。」
- ・「八木重吉は「誰をも犠牲にしない生き方」を考えていた。」
- ・「一人ひとりが周りの人に「やりませんか」と声をかけよう」

落合恵子さんの言葉は胸に突き刺さるものでした。私たちは福島や沖縄を犠牲にしていると思います。

続いてトークショーの形で農業・漁業・観光業の関係の方、高校生ら合計7人の方が被災の現状や脱原発の思いなどを訴えられました。以下にいくつかご紹介いたします。

武藤頼子さんは「まだ12万人の人が避難生活を強いられている。避難生活は苦しい。たくさんの方がなくなっていく。うつ病にかかっている方の割合が普通の3倍もある。」と衝撃的な報告をされました。迂闊にも「もう4年もたったので 相当落ち着いているのではないか。」と考えていた自分が恥ずかしくなりました。

なお武藤頼子さんは福島原発告訴団の団長をされている方で 事故直後の感動的なメッセージがcoop-joso(3月3日号)にのっています。

避難者の話が出ましたが、今回常総生協からごいっしょに参加された川村さんも実家の双葉町の親戚が今も避難されているとのこと。おばあちゃんは避難の途中で亡くなられお骨になって帰ってきたとお聞きました。

JA Fukushimaの管野組合長は「原発事故は生産者と消費者、都市と農村、家族の分断を引き起こした。」と述べられました。

「高校生平和大使」の本田歩さんは「原発は絶対に危険だ。何としても止めてほしい。世界中に訴えよう」と強く訴え、会場から大きな拍手を浴びました。

大会最後の集会アピールでは「原発事故を記憶し事故から学び これからの人たちに明るい未来を約束するために「原発のない福島」を目指そう」を採択しました。





常総生協からは 今回この集會に4人参加しました。(村井理事長、大石副理事長、會員から川村・石崎)。茨城県からはバス一台分(45人くらいでしょうか)。往きの車中でそれぞれの自己紹介や近況報告があり 帰りの車中では感想や意見の交換があり退屈しませんでした。

とくに車が遙かに阿武隈山系を望むあたりに差し掛かった時 大石さんから

「4年前、常総生協は山木屋グリーン牧場にはやっと4月2日、飲用水・食糧・ガソリンを届けに来たが牛を放し飼いにして自然の森の中で育てていたことが裏目にて、すべて被ばくさせてしまった。せめて生まれてくる仔牛を助けたいと思ったがそれも叶わずと

うとう全頭殺処分して撤退することとなった。」

と伺い この常総生協も福島原発事故で家を失った福島県民と同じような 犠牲者の一人だと実感しました。

以上が福島県民大集會に参加しての報告ですが 感想として今回は大変楽しくかつ有意義なツアーだったと思います。ここ数年体調が悪かったのですが健康回復に努めた成果が出始めたのか 12時間を超えるツアーにも何とか耐えられることがわかりました。

老齡ではありますが 皆様のお仲間に加えていただき 原発をなくす活動にできる範囲で参加していきたいと思ひます。どうぞよろしくお祈ひします。

「平和の集い」(3) 私たちは若い世代にどのように伝えていったらよいのでしょうか

○「ニューギニア戦線 遺族の思い」(2)

さて、平成2年10月に茨城県遺族会連合会主催で、パプアニューギニア慰霊巡拝に行った時の話をしたいと思います。念願叶って、県全体で33名。牛久市で4名、団長は県遺族会事務局長、県福祉部長他職員2名、県立中央病院の医師、看護師の引率、茨城新聞社社員1名。成田からマニラ経由で、マニラでハ日本軍戦跡を見学し、6時間かけてマニラからパプアニューギニアのポートモレスビーに。

ポートモレスビーは熱帯の赤道直下で日差しが強かった。10月なのに気温も35℃以上あり、じりじりと焼けるようでした。衛生状態も悪く水も飲めない。下痢をした人も多かった。ポートモレスビーからラエに着いて、野戦病院の跡地で慰霊祭を行った。お酒や食物、タバコを持って行ってお供えし、塔婆も20本立ててきた。

周りには原住民が寄ってきて、お供え物を持って行ってしまった。塔婆は焚き木にするらしい。保存食をたくさん持っていたのだが、最後の頃



は、現地食のパパイヤ、やしの実、豚の丸焼きなども食べた。かなり治安も悪かったので、現地の警察官2名に引率して貰った。原住民との交流もありタバコをプレゼントした。子どもたちにはボールペンをプレゼントした。とても喜んでくれた。

パプアニューギニアは、伝染病が多いので、子どもは一家族10人位いるが、半分以上しか大人になれない。海はサンゴ礁の海できれいだった。観光地は無く、ホテルはプレハブ。鉄道は無いので交通機関は60人用の飛行機だった。ラエからウェワクまで3泊かけて移動した。ウェワクには墓石が建っていた。生き残った戦友たちが石を日本から運んで建てたらしい。ウェワクのホテルは日本人が経営していた。お風呂は無く、シャワー

のみ。日中はジャングルを見て回った。飛行機の残骸、兵器の残骸がたくさん見受けられた。

父は、ウェワクのヤオケバという所で亡くなったと聞いていたので、その場所まで行きたかったが、そこまでは60キロもあり、交通手段もないというので断念した。原住民の家は、丸太小屋で、やしの葉で作ってあった。ドラム缶に雨水を溜めて飲んでた。ウェワクからマダンまではマイクロバスで移動した。

道はデコボコで埃がひどく、ホテルで洗濯をした。マダンでも慰霊祭を行った。日本軍戦死者の墓が小高い丘の上にあった。原住民の100人程来ていた。お供え物を狙っていたようだ。

日本からはるか遠くの Papua New Guinea の地で、ここで父が亡くなったと思うと、見えない父と会話をしているような気持であった。みんなそれぞれに父の名を呼んで涙を流しているようだった。こんな異国のジャングルで、食糧も兵器もないづくしの土地で、飢えに苦しみ、栄養失調になり、マラリアに罹り、何で大切な命を落とさなければならなかったのか。妻や子が待ってい

る日本に、どんなに帰りたかっただろうと胸が張り裂ける思いでした。マダンからマニラ経由で成田に帰り、長年の責任、母が来たくても来れなかった Papua New Guinea に来れたという責任を果たせた思いでいっぱいでした。

遺族会については、親の立場が亡くなり、妻の立場はわずか。今は息子、娘の立場の人が大部分ですが、これを孫がその先まで引き継いで貰いたいと希望しているが、なかなか難しい。出来ればここにいる皆さんが、いろいろな方に戦争の悲惨さと、戦争が終わっても遺された者が何十年も大変な思いをするという事を、子どもたちに伝えていってほしいと願っています。

もう、私たち年代も一年一年亡くなっていきます。力の続く限りは、老体に鞭打って活動していきたいとは思っていますが、そんなに先は長くないので若い方々に頑張っていただきたいと思うのです。

長い時間、お話を聞いてくださりありがとうございました。人前で話す機会もなく、まとまりのない話で大変失礼を致しました。

父に召集令状が来たのは、から始まったお話。父親の戦死の報は10歳の時だったという本橋積善さん。終戦後、戦友が父親の印鑑を携えて父親の最期の様子を知らせてくれたこと。母親は信じ難く何度も何度も聞き返していたこと。長男であった自分は暮らして精一杯でと、今まで口を開くことの無かった、その頃の話は淡々と昔に歩んだ辛かった道、その日常を語っていただきました。

茨城県でもっとも戦没者が多かった3年間にわたる戦闘激

戦の Papua New Guinea の地を、平成2年、戦跡慰霊巡拝で遺族会の皆さんと灼熱の赤茶色の大地の現地を踏みしめたこともお話の中にもありました。—資料には無かったけれど声なき対話、涙の旅であったことを「茨城新聞社発刊の南へ5キロ激戦の島 Papua New Guinea」発刊で知りました。

そこには、ポ、ポ、ポ、ハトポッポをぎこちない日本語で歌う老人、酋長のおはこがはじまると自分たちも覚えているイチ、ニ、サン、を披露する若者たち。このどこに戦争が必要だったのか？（村井 記）

「配達料」精算のご連絡

「配達料」は、以下の基準を満たしている場合、「4月分の請求書」にて精算させていただきます。

●精算の基準は？

年度（2014年4/1回～2015年3月4回まで）の**利用額合計が、税抜28万円（税込30万2,400円）を超える場合、お預かりしていた配達料を返金致します。**

※班（グループ）については、班合計で上記基準を満たしている場合、そのメンバー全員が返金の対象となります。



「請求書」の
ココに注目！
（年間利用額の合計と
返金額が記載されて
います）

●精算の方法は下記2通りから。

- a) 4月分の商品代金と相殺（充当）
- b) 出資金に振り替え

※対象者には4月2回～5回の4週間の間に、a～cの精算方法を決めて頂きます。

●いつ精算されますか？

次月「4月分の請求書」にて、上記 a～b の方法で精算します。

～その他詳細は、返金対象の方に「ご案内」をお届けしています～